

ヤマアカガエル *Rana ornativentris* Werner

【選定理由】

全体に確認例が減少しているが、特に丘陵部での確認例が少ない。調査が不十分で分布、個体数など詳細が不明である。将来準絶滅危惧種に移行する可能性があり、評価を情報不足とした。



新城市菅沼, 大竹 勝 撮影

【形態】

体長は雄で 42~60 (平均 48) mm。雌で 36~78 (平均 68) mm。体色黒褐色から茶褐色。鼓膜はほぼ円形で、直径は眼径の 1/2~3/4。上唇縁後部から後方に向かい、前肢基部の前方終わる顕著な隆条をもつ。眼から後ろに伸びる背側線は、外側に折れ曲がる。背面や側面に黒い斑紋が出る。喉や下顎にも出ることがある。雄は下顎基部に 1 対の鳴嚢を持つ。ニホンアカガエルによく似るが、本種は背側線が折れ曲がることや、雄に鳴嚢のあることなどで判別が可能である。

【分布の概要】

日本固有種。県内では尾張北部から三河地方の山間部に分布する。国内では本州、四国、九州、佐渡島に分布。

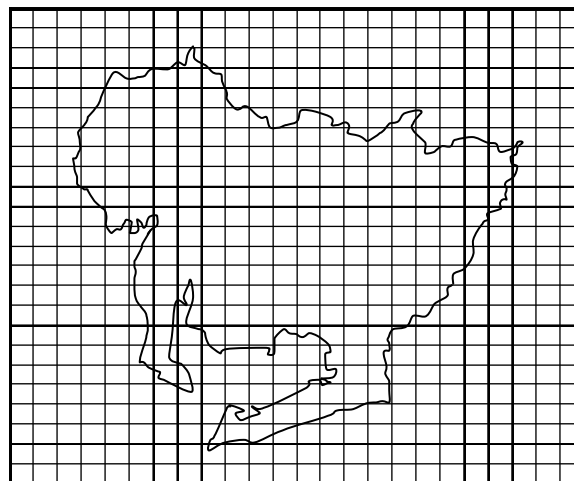
【生息地の環境 / 生態的特性】

平地から山地の止水と周辺の山林に生息する。産卵期は 2~3 月であるが、山地では 4 月までずれる。湿地、河川の水たまり、水田、池などの日当たりの良い浅い止水に産卵する。成体は産卵後一時休眠する。幼生は 6~8 月に変態する。非繁殖期は主に森林周辺で生活し、昆虫、ミミズ、ナメクジなどを食べる。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

現在の生息状況の詳細は不明。乾田化、水路工事等により早春の止水環境が悪化し、産卵環境が減少していることが減少の要因になっている。

県内分布図



【保全上の留意点】

産卵期の止水環境を維持することが重要である。

【関連文献】

保両爬 42-43、愛両は 48-49、カエル 76-79、平両爬 102-105、山カエル 82-88、オタマ 32。